

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 11 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530619

研究課題名(和文) 国際移民の編入様式の相違と階層移動にかかわる比較社会学的研究

研究課題名(英文) A comparative study of immigrants' incorporation and class mobility

研究代表者

竹ノ下 弘久 (Takenoshita, Hirohisa)

上智大学・総合人間科学部・教授

研究者番号：10402231

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、人口減少下の日本社会において、海外からの移民の社会的統合についての比較研究を行った。具体的には、移民の国籍や法的な滞在地位といった受入の文脈の相違が、2000年代後半に起こった経済危機下における失業経験にどのような違いをもたらしているのか考察した。本研究では、非熟練労働に従事する移民労働者に注目し、静岡県を移民を対象とする質問紙調査のデータを用いて分析を行った。分析の結果、国籍間の失業率の相違の一部は、研修・技能実習生の比率の相違から生じていること、移民のなかでも日系人の失業率が高く、その理由は、派遣・請負といった雇用契約のあり方に起因していることなどが、明らかになった。

研究成果の概要(英文)：Given the population decline in Japan, this study compared the trajectories of immigrants' integration into the host society by nationality and by residence status. This study explored the way in which the context of reception for immigrants affected a likelihood of becoming unemployed during the period of financial crisis in the late 2000s. In this study, I used the data derived from the surveys for immigrants in Shizuoka Prefecture, conducted in 2007 and in 2009 to examine the economic situations among unskilled immigrants in Japan. What I found in this study is that a likelihood of unemployment in a given group of immigrants depended on the composition of trainees and technical interns in this group. After controlling for this status of trainees and interns, we see that Latin American immigrants of Japanese descent were still likely to become unemployed than other immigrants because of their precarious nature of employment contract.

研究分野：社会学

キーワード：失業 非正規雇用 グローバル化 経済危機 社会的統合 受入の文脈

## 1. 研究開始当初の背景

日本社会では、80年代以降のグローバル化の進展とともに、多くの外国出身の移民・外国人の受け入れを経験し、近年では、少子高齢化にともなう人口減少に直面するなか、移民労働者の受け入れをめぐる議論が活発に行われてきた。そうしたなか、日本でも、さまざまな国籍や階層の人々を対象とした小規模な調査研究が活発に行われてきた。しかし、その一方で、先行研究にはいくつかの問題があった。第1に、その多くは、小規模な質的調査にもとづくものであり、その知見の一般化にはさまざまな留保を伴う。第2に、これまでの研究は、特定の出身国・地域の人々に限定して、移民・外国人の定住化、就業構造、子どもの教育について論じるものが多く、異なる国籍や出身地域の移民・外国人を体系的に比較し理論化を図るものは、ほとんど見られなかった。

他方で、欧米では移民を対象とする階層移動、地位達成に関する研究は数多く行われ、複数の移民集団の比較にもとづく研究も多い。分節化された同化理論は、移民のホスト社会への編入や統合に関する諸条件を体系的に整理しており、本研究を行う上で大きな示唆に富む。移民政策、労働市場構造といった移民のホスト社会における受け入れの文脈を重視し、あわせて、移民自身の人的資本、社会関係資本の果たす役割にも注目する。

申請者は、これまでも、文部科学省の科研費の助成を得て、2009年度から2011年度に、「国際移民の社会経済的地位上昇の可能性」と題する研究プロジェクトを進めてきた。そのなかで、日系ブラジル人の従業上の地位の移動、かれらの子どもたちの教育達成、トランスナショナルな移動と日本での社会経済的地位との関係について、研究成果をまとめてきた。とはいえ、これまでの申請者の研究は、日系ブラジル人内部の階層的地位の相違と日本人とブラジル人の相違に関心が限定され、複数の国籍別の体系的な比較を通じて、移民の階層移動・地位達成について十分な検討をしてこなかった。

## 2. 研究の目的

本研究は、日本の移民研究にかけていた計量的データによる国籍別比較を通じ、特定の移民集団を越えて、人的資本・社会関係資本が、どの程度、日本における移民の階層移動・地位達成に寄与しているのか、そして、移民集団ごとに異なる国際移動の文脈や受け入れの文脈の相違が、かれらの日本社会での階層移動、地位達成とどのように関係しているのかを、体系的に明らかにする。主として、静岡県庁が2009年8月に県内に居住する外国人住民を対象に行った質問紙調査のデータに依拠して検討する。また、この時期、アメリカ発の経済危機によって、ブラジル人

をはじめとする多くの移民労働者が職を失って失業している。そのため、移民の階層を表す具体的な指標として、失業経験に着目した分析を行う。

とりわけ、経済危機に伴う就業・失業の動向について、移民集団間でいかなる相違が存在するのかを把握する。その上で、移民集団間の就業動向の相違は、人的・社会関係資本、地域の受け入れの文脈、エスニック・コミュニティ、労働市場への編入様式の相違によって、どの程度説明できるのか、これらの要因による説明力が、移民集団によってどの程度異なるのか明らかにする。これらとあわせて、移民の子どもたちの教育の動向にも着目し、移民の世代間での階層的地位の再生産について検討する。移民家族の主観的な意味世界として、家族の将来展望にも注目した分析を行い、それらが、移民の階層移動とどのような関係があるのかも明らかにする。

## 3. 研究の方法

本研究では、日本における国際移民の階層移動・地位達成を明らかにするために、静岡県庁が2009年に県内でも人口規模の大きな7カ国の国籍を有する外国人に対して行った調査データを用い、これらの集団間を比較することで、移民の第一世代の就業構造とその子どもたちの教育達成が、どのような要因によって左右されているのかを明らかにする。2009年という時期は、経済危機の影響を大きく反映していることから、今回の経済危機が、移民の就業や子どもたちの教育にどのような影響を及ぼしているかも、十分に考慮した分析を行う。そのために、2007年に静岡県庁が県内のブラジル人を対象に行った調査のデータもあわせて用いる。

## 4. 研究成果

まず、経済危機に伴う移民の失業に関する分析によって明らかになった知見について述べる。移民の失業に関する研究は、とりわけ、アメリカよりもヨーロッパ諸国で盛んに行われてきた。これには、移民をとりまく福祉・雇用レジームが大きく関係している。アメリカのような典型的な自由主義レジームの国では、失業時の社会保障の給付が十分でないことと、非熟練労働に対する労働市場における需要が高いこともあり、他の国と比べて相対的に失業者が少ない。すなわち、非熟練労働に従事する移民労働者は、たとえ、仕事を失ったとしても、失業状態にとどまることが許されず、日々の生活を支えるために、十分な賃金が支給されなくても、何らかの労働に従事する選好をもつ。他方で、失業者に対して手厚い失業給付が支給される場合、労働者は自己の労働を安売りせずとも、失業状態にとどまることが可能であるため、結果的

に失業率が高くなる。全体的な失業率の高さは、移民労働者にも波及し、移民の失業率も全体として高くなりがちである。このような事情から、ヨーロッパでは、移民の失業に関する研究が行われてきた。それらによれば、移民の失業は、人的資本論と分断労働市場論によって説明がなされてきた。人的資本論では、人的資本の国境を越えた移転可能性の困難さと、受け入れ社会に特有な人的資本の獲得の重要性が、論じられてきた。分断労働市場理論では、労働市場の分断構造が、労働市場における移民労働者への需要を生み出し、移民労働者の上昇移動を阻害すると論じてきた。近年のグローバル化に伴う労働市場の流動化とその失業への影響も、分断労働市場理論の立場から理解されてきた。

これらの研究をもとに、日本における移民の失業について考察する。日本の労働市場の構造は、以前から、分断労働市場論によって説明されてきた。日本における企業規模間の労働市場の分断構造は、1980年代における中小企業での労働力不足から、非正規滞在の外国人労働者の就労をもたらした。

1990年代以降は、日系人に対する合法的な滞在資格の付与と研修・技能実習制度が、非熟練労働に従事する移民労働者の供給に大きく関わってきた。国際結婚によって日本に居住する移民も多い。数は少ないが、難民として来日し、定住する人々もいる。こうした様々な受け入れの文脈の相違が、今回の経済危機に伴う失業にどのような影響を及ぼしているのか検討したところ、次の点が分かった。出身国別に失業の対数オッズの違いを見たところ、ブラジルとペルーで失業のオッズが高く、インドネシアで失業のオッズが有意に低いことが分かった。次に、回答者が研修・技能実習生かどうかをコントロールしたところ、インドネシア人に見られた失業の有意差が消失した。すなわち、インドネシアで有意に低い失業率は、研修・技能実習生の構成効果によるところが大きいことを意味している。日系人については、さらに他の諸変数を考慮に入れて分析したところ、ブラジル人については、失業の有意差は消え、ペルー人にも他の集団との有意差が残った。ブラジル人については、とりわけ、教育の効果をコントロールすると、ブラジル人に高かった失業傾向が消えた。ブラジル人についてはさらに、別のデータも考慮して分析すると、教育の効果は、従業上の地位と関係していることが分かった。すなわち、低学歴の者ほど、従業上の地位が、派遣・請負の間接雇用であり、その結果、失業の傾向が高くなる。他方でペルー人の失業率の高さは、他の要因に還元することができなかった。日本人の配偶者がいる人たちに注目すると、男性と女性で異なる傾向がみられた。日本人配偶者がいる外国人男性の場合、失業率が低かったが、日本人配偶者がいる外国人女性は、失業率が高い傾向がみられた。日本人配偶者がいることの

効果は、ジェンダーによって異なることも分かった。失業について、ベトナム系難民に特有な傾向がないか確認したが、他の集団と比較して顕著な傾向は見られなかった。

以上の分析から、出入国管理政策によって枠づけられた移民の受け入れの文脈は、経済危機に伴う失業にも大きな影響を及ぼしていることが分かった。加えて、労働市場における非正規雇用という位置は、経済危機に伴う失業と大きく結びついていることも分かった。

さらに、ブラジル人を対象に、経済危機における主観的な意味世界に注目するために、かれらのメンタル・ヘルスについて分析を行った。経済危機のなか、仕事を失い、非常に不安定な状況におかれていることは、かれらの精神的健康を大きく害し、抑うつを高めていると思われる。そのなかでも、かれらの社会関係資本がどのような効果をもつか分析したところ、ブラジル人同士の紐帯が、抑うつを低める効果をもつことが分かった。さらに、出身国とのトランスナショナルなつながりやこれまでの行き来が、精神的な健康状態を高めることも分かった。筆者は、ブラジルと日本との頻繁な行き来は、子どもの教育達成に否定的な影響を及ぼすことを明らかにしているが、この結果は、子どもの教育に及ぼす結果とは食い違うものであった。このように、移民の親世代と子世代では、出身国との頻繁な行き来がもたらす効果が異なることを明らかにした。

子どもたちの教育達成については、ブラジル人に限定したところ、父親が非正規雇用に従事していること、母親が働いていないことは、高校進学率を低めることが明らかになった。経済危機において、移民の失業率が急激に増大し、十分な所得が得られない中で、移民の子どもたちの教育達成を大きく押しとどめることが、分析からうかがえた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 6 件)

1. Takenoshita, Hirohisa. 2015 “Social Capital and Mental Health among Brazilian Immigrants in Japan.” *International Journal of Japanese Sociology* 24: 48-64. 査読有

2. Takenoshita, Hirohisa, Yoshimi Chitose, Shigehiro Ikegami, and Eunice A. Ishikawa. 2014 “Segmented Assimilation, Transnationalism, and Educational Attainment among Brazilian Migrant Children in Japan.” *International Migration* 52 (2): 84-99. 査読有

3. Kanbayashi, Hiroshi and Hirohisa Takenoshita. 2014 “Labor Market Institutions and Job

Mobility in Asian Societies: A Comparative Study of Japan and Taiwan.” *International Journal of Japanese Sociology* 23: 92-109. 査読有

4. Takenoshita, Hirohisa. 2013 “Labour Market Flexibilisation and the Disadvantages of Immigrant Employment: Japanese-Brazilian Immigrants in Japan.” *Journal of Ethnic and Migration Studies* 39(7): 1177-1195. 査読有

5. 竹ノ下弘久 2012 「社会階層をめぐる制度と移民労働者——欧米の研究動向と日本の現状」『三田社会学』17号: 79-95. 査読有

6. Takenoshita, Hirohisa. 2012 “Family, Labour Market Structures, and the Dynamics of Self-Employment: Gender Differences in Self-Employment Entry in Japan, Korea and Taiwan.” *Comparative Social Research* 29: 85-112. 査読有

〔学会発表〕(計 15 件)

1. Takenoshita, Hirohisa. 2015. “The Growing Non-standard Employment and Inequality in Japan: The Economic Background of De-population in Japan.” 招待講演 Paper presented at the CFAR seminar for the declining birthrate in Japan, held at the Center for Advanced Research, SIM University, Singapore, March 11<sup>th</sup>.

2. Takenoshita, Hirohisa. 2014 “The Shrinkage of Middle Classes in Japan? The Growing Labour Market Flexibility and its Consequences for Class Structure.” Paper presented at the international conference on the decline of middle classes, held at Segovia, Spain, September 28th to 30th.

3. Takenoshita, Hirohisa. 2014 “The Great Recession and Unemployment among Brazilian Immigrants in Japan.” 招待講演 Paper presented at the Workshop on Migration, held at Department of Geography and Economic History, Umea University, Umea, Sweden, September 26th.

4. Takenoshita, Hirohisa. 2014 “The Great Recession and Unemployment among Brazilian Immigrants in Japan.” 招待講演 Paper presented at the Migration Seminar, held at the Malmo Institute for Migration, Diversity and Welfare, Malmo University, Malmo, Sweden, September 24th.

5. Takenoshita, Hirohisa 2014. “The impact of the recent economic crisis on unemployment of immigrants in Japan.” Paper presented at the

meeting of American Sociological Association, held at Hilton San Francisco, San Francisco, US, August 16th to 19th.

6. Takenoshita, Hirohisa 2014. “The great recession and unemployment among Brazilian immigrants in Japan.” Paper presented at World Congress of Sociology, International Sociological Association, held at Yokohama, Japan, July 11th to 17th.

7. 竹ノ下弘久 2014 「移民とソーシャル・キャピタル——日系ブラジル人を事例に」ソーシャル・キャピタル・ワークショップ(招待講演) 日本大学(東京) 2014年3月13日。

8. Takenoshita, Hirohisa. 2014. “The impact of the recent economic crisis on unemployment of immigrants in Japan.” Paper presented at the Asia Pacific Social Science Conference, held at Renaissance Seoul Hotel, Seoul in South Korea, January 8th to 10th.

9. Takenoshita, Hirohisa. 2013. “The impact of the financial crisis on unemployment among immigrants in Japan.” Paper presented at the meeting of Japanese Sociological Society, held at Keio University, Tokyo in Japan, October 12th to 13th.

10. Takenoshita, Hirohisa 2013. “The impact of the recent economic crisis on unemployment of immigrants in Japan.” Paper presented at the meeting of Research Committee 28 on Social Stratification and Inequality, International Sociological Association, held at University of Queensland, Brisbane in Australia, July 17th to 19th.

11. Takenoshita, Hirohisa. 2013. “Variations in the outcomes of social capital: The objective and subjective world of Brazilian immigrants.” 第55回数理社会学大会報告、東北学院大学(仙台) 3月19日-20日

12. Takenoshita, Hirohisa and Emi Tamaki. 2013 “Socioeconomic Integration, Transnationalism and Psychological Well-being among Brazilian Immigrants in Japan.” Paper presented at the meeting of Research Committee 31 on Migration, International Sociological Association, held at Tel Aviv University, Tel Aviv, Israel, January 8 – 10.

13. Takenoshita, Hirohisa. 2012 “Brazilian Immigrants in Japan and their Subjective Well-being: Segmented Assimilation Approach.” Paper presented at the Symposium on New Frontiers of Relative Deprivation and Inequality, organized by Global COE Program in Tohoku

University, held at Hotel Metropolitan Sendai, December 15.

14. Takenoshita, Hirohisa. 2012 “Economic Crisis and Brazilian Immigrants in Japan: The Role of Social Inclusion Policies.” Paper presented at the meeting of Forum of Sociology, International Sociological Association, held at University of Buenos Aires, Buenos Aires, Argentina, August 1 – 4.

15. Takenoshita, Hirohisa. 2012 “Institutional Arrangements and Social Capital: Brazilian Immigrants in Japan and their Chances for Upward Mobility.” Paper presented at the meeting of Forum of Sociology, International Sociological Association, held at University of Buenos Aires, Buenos Aires, Argentina, August 1 – 4.

〔図書〕(計 7 件)

1. Ishikawa, Yoshitaka (ed), Takenoshita, Hirohisa. 2015. *International Migrants in Japan: Contributions in an Era of Population Decline*. Melbourne: Trans Pacific Press: 234-255.

2. 宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編・竹ノ下弘久 2015 『国際社会学』有斐閣: 63-78 .

3. 太郎丸博編・竹ノ下弘久 2014 『東アジアの労働市場と社会階層』京都大学学術出版会: 169-197.

4. 渡辺秀樹・竹ノ下弘久編 2014 『越境する家族社会学』学文社: 214 - 228 .

5. 竹ノ下弘久 2013 『仕事と不平等の社会学』弘文堂.227 ページ

6. 渡辺秀樹・金ヒョン哲・松田茂樹・竹ノ下弘久編著 2013 『勉強と居場所 学校と家族の日韓比較』勁草書房: 40-71.

7. Huy, Huynh Truong (ed), Takenoshita, Hirohisa. 2013. *Migration: Practices, Challenges and Impact*. Hauppauge NY: Nova Science Publishers: 155-178.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6 . 研究組織  
(1)研究代表者  
竹ノ下 弘久 (Takenoshita Hirohisa)  
上智大学・総合人間科学部・教授

研究者番号：10402231